

七北田川河口付近の津波堆積物

■七北田川河口付近の津波堆積物

七北田川河口付近の津波堆積物を確認した。場所は七北田川に貞山堀が流れ込む（現在水門は動いていないが）付近である（Fig.1）。七北田川の元々あった川底の堆積物の上に大きく2層に分かれてみることができた（Fig.2）。2層とも、砂質の堆積物で、地層中にガラス片（比較的新しい物）や金属片、ビニル片を含んでいる（Fig.3,4）。特に下層は、露出している部分が黒く変色しており、確認をすると木が炭化した物であることがわかった。地層の内部は変色しておらず、木片もそのまま残っている物もあった。このことから、この層は堆積時に木片が何らかの原因で燃えてしまい、堆積をしたものであると考えられる。上部の地層では、葦がしっかりと根付き生い茂っている様子が見られた。



Fig.1 七北田川と貞山堀の合流点。葦が生い茂っている。



Fig.2 津波による堆積物と考えられる層。上部の堆積物と下部の黒い堆積物を確認することができる。



Fig.3 津波堆積物と考えられる2層。上部の層には葦が勢いよく生い茂っているのがわかる。下部層には比較的新しいガラス片が見られる。下部層は全体的に黒いのがわかる。



Fig.4 上部層には金属棒を含み、下部層には厚めのガラス片を含む